

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4673100113号		
法人名	医療法人 木村外科内科		
事業所名	グループホーム きむら		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 石谷町 2105番地 3 (電話) 099-278-0058		
評価機関名	N P O 法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-26		
訪問調査日	平成21年8月11日	評価確定日	平成21年9月12日

【情報提供票より】(21年7月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12人	非常勤 4人 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~30,000	その他の経費(日額)	700 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護 1	6 名	要介護 2	5 名
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 86.3 歳	最低 71 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村外科内科	是枝歯科医院	四元歯科医院
---------	--------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の団地の中で永年地域医療に携わってきた医療法人を母体として開設されているホームである。母体医療機関や系列の通所リハビリ・居宅介護・訪問看護事業所等に隣接しているため、多くの方々との関わりを持つことのできる環境にある。職員は利用者と共に、ゆっくり落ち着いた時間の流れの中でその人らしい生活を支えている。職員の細やかな支援で利用者の表情が豊かになり、家族等の安心や満足度に繋がっている。ケア責任者を配置し、内外研修を推進して常にケアの質の向上を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域の中で、その人らしく暮らし続ける事を支えていくというグループホームの理念を作り上げている。また自己評価に職員全員で取組み、主要な課題は改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 職員は評価の意義や目的をふまえて、自己評価に取り組んでいる。利用者一人ひとりの満足度アップにつながるケアを行う事が大切である等の意見が出されて、具体的な課題を設けて改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は定期的に開催されている。災害時におけるホームの安全確保についての意見でハンドマイクを配備したり、毎年行っている水質検査についての意見が出されるなど改善に取り組み、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設けたり、運営推進会議や来訪時に意見の出しやすい雰囲気づくりに心がけている。身体状況に合わせて生活リハビリの工夫をしてほしいとの要望に対して、個々のプランを見直して対応し、家族等に喜ばれている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の子供会行事の七夕・文化祭・灯篭作り・もちつき大会や敬老会・踊り・バーベキュー大会に参加して交流を図っている。中学生の体験学習を定期的に受け入れたり、ボランティア来訪など幅広い人々との交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の維持支援のサービスをグループホームの理念として作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・和室等に掲示し、管理者や総括責任者は勉強会や申し送り時に理念について確認し、皆で共有し日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	6	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の子供会行事の七夕・文化祭・灯籠作り・もちつき大会や敬老会・踊り・バーベキュー大会等に参加して交流を図っている。中学生の体験学習を定期的に受け入れたり、ボランティア来訪など幅広い人々との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や目的をふまえて、自己評価に取り組んでいる。利用者一人ひとりの満足度について、具体的な課題を設けて改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に開催されている。災害時におけるホームの安全確保についての意見でハンドマイクを配備したり、毎年行っている水質検査についての意見が出されるなど、改善に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者にホームの運営やサービスについて相談しながら関係作りを積極的に行っている。また、市の介護相談員の来訪も受け入れている。		

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしづらりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的に個々にあわせた報告をしている	定期的に発行しているホーム便り・連絡帳・月次報告や家族の来訪時に心身の状況や暮らしづらり、職員異動、行事予定等を報告している。金銭管理は出納帳で管理し、定期的に報告し、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させてている	意見箱を設けたり、運営推進会議や来訪時に意見の出しやすい雰囲気作りに心がけている。身体状況に合わせたリハビリについての意見に、個々のプランを見直しして対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者・家族等との馴染みの関係を重要視したケアを心がけている。職員のストレスケアを行い、離職を抑える努力をし、異動によるダメージ予防を行っている。		

5. 人材の育成と支援

10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、外部研修は段階に応じて参加し、研修報告をしている。また、内部研修は担当制にして勉強会を行い、職員の技術や知識の向上に努めている。資格取得希望者には支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム協議会に加入しており、他事業所と情報交換やケア会議等行っている。ホームに立ち寄ってもらったり、相互交流の準備などをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には本人と家族に面談し、生活状態や思いや不安を十分に聞いていている。また、馴染めるように見学や体験をしてもらい、信頼関係を築き不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の関わりの中で、料理の盛り付けや味付け・菜園の作業・ピアノ演奏などの特技を共に楽しんだり、夢中になって作業をしている時に見せる生きいきとした表情と動作に喜びを感じながら支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの身体状況を把握して、本人の言動・表情・サインを引き出している。家族等の協力を得たり、職員間の情報交換に努め、本人の視点に立って話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートに課題を記録したり、本人や家族・主治医・職員の気付きや意見を反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期及び長期の見直しをしている。生活記録・介護日誌・連絡帳にケアの実践・結果・気づきを記録して情報を共有し、入居者の状態変化や退院時はその都度モニタリングを行い、評価結果の見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等要望に応じて、病院受診や送迎など必要な支援を柔軟にしている。医療連携体制もとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとっており、重度化や終末期に対して家族・医師・看護師・職員で話し合いを行い共有している。ホームが支援できる指針が定められて、家族等の同意書も作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムと身体状況を大切にしながら、日常作業や入浴・レクリエーション等、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に料理の下ごしらえや配膳・下膳などを行いながら、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体調に合わせた入浴支援をしている。毎日入浴できる準備もしており、仲の良い利用者同士での入浴なども楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ・花の水やり・ピアノ演奏・食器洗い・調理の手伝い・菜園の作業等、利用者の趣味や特技が發揮できるように支援している。また、散歩や買物・外気浴・外食・公園に出かけるなどして、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買物・公園・外食に出かけている。また、大型車でドライブも行っている。また、体調の気になる方は主治医に相談しながら出かける等、閉じこもらない支援に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中鍵をかけないケアに取り組み、プライバシーに配慮しながら、見守りに努め一緒に行動するようにしている。入居者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼・夜間を想定した避難訓練を消防署・地域住民の協力のもと行っている。地域の公民館を避難場所として指定している。また、災害時の備蓄や夜間の職員ローテーションを3名にする等、安全確保に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録して、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて食事形態を変えたり、工夫している。また、栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は景観が良く清潔で、温度や湿度に配慮が行き届いている。玄関やベランダ・ホールに季節の花や利用者等の工作物が飾られて、畳の部屋やソファーなどくつろげるスペースが確保されていて、入居者はゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・時計・テーブル・椅子・洋服ダンス・寝具・工作物等、使い慣れた物品や位牌が持ち込まれている。また、居室入口に分かりやすいのれんや造花が掲げられて、それぞれ個性のある居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。